タイムス　10/1　第3種郵便物認可

# ゆだねた写真 先人の心凝縮

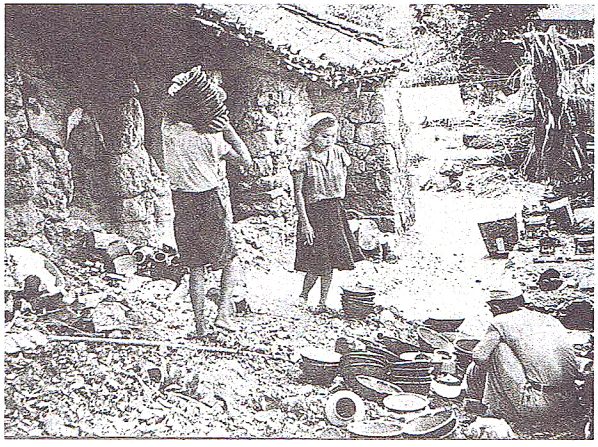
## 故船木さん 陶芸家・新垣さんに88枚

## 沖縄展開催の思い実現

### 国展工芸沖縄展　あすまで

那覇市の県立博物館・美術館で開催中の「90回記念国展工芸沖縄展」（主催・国画会工芸部、沖縄タイムス社）で、特別展示されているガラス作家の故船木倭帆（しずほ）さんの作品に、陶芸家の新垣修さん(62)＝うるま市＝が沖縄での国展開催実現を報告した。倭帆さんから船木家（島根県）に保管していた戦前戦後の貴重な沖縄の写真88枚を贈られた新垣さん。「倭帆さんの後押しも受け、沖縄で国展を開催できて良かった」と感謝を示した。

（学芸部・吉田伸）



㊤故船木倭帆さんの作品の前で、船木さんから寄贈された昭和初期の写真を手に感謝する新垣修さん＝那覇市の県立博物館・美術館㊦故船木倭帆さんから贈られた写真の一枚。壺屋で撮影されたが年代不明（新垣修さん提供）

倭帆さんは1982年国画会会員になったガラス作家で、今回は「モール蓋付碗」が展示されている。倭帆さんの父で陶芸家の故道忠さんは40年、故柳宗悦さんらが率いた沖縄調査「琉球観光団」の一員として来県。また同じく陶芸家で倭帆さんの兄、故研児さんは53年、壺屋の陶工の技術指導のため那覇市の招きで来県し壺屋で作陶した。

倭帆さんは生前、同じ国画会工芸部で活動する新垣さんに「国画会と関わりが最も深い沖縄で巡回展をやるべきだ」と説いていたという。2010年ごろ、本展が開催されていた東京の国立新美術館で、船木家に残された写真の複写を新垣さんに手渡し「沖縄にこういう写真はあまりないと思う」と激励した。

写真は1940年、琉球観光団の写真担当だった故坂本万七さんが撮影した「崇元寺本殿」で女性らが拝みをしている場面や、フクギ並木と屋敷を写した「瓦塀」などと同じ場所を撮影しているが、わずかに構図がずれている。壺屋の人々が作陶する様子や中城御殿の石灯籠なども活写している。写真は40年と53年に撮られたと考えられる。

新垣さんは「貴重な写真と沖縄への思いが遺言のよう。沖縄開催は倭帆さんの後押しもある」と笑顔。同じく陶芸家の妻初子さん(65)も「先人たちの思いが伝わる。よく残してくれた。沖縄に対する熱い思いや温かみを感じる」と感謝した。同展は10月2日まで。